

15 | 象の風景―N 峠地区 | Elephant-The N Pass | 1981 | エングレーヴィング | 10/60 | Engraving | 49.9×36.9; 36.4×24.9

16 | 象の風景―K ダム地区 | Elephant-The K Dam | 1981 | エングレーヴィング、空押し | 1/50 | Engraving and embossing | 45.1×59.6; 33.2×49.9

17 | 象の風景―零地帯 | Elephant-Zero Sea Level | 1986 | エングレーヴィング、空押し | 1/50 | Engraving and embossing | 52.6×65.5; 36.5×47.9

18 | 象の風景―虚無への設計 | Elephant-Nothing Plan | 1987 | エッチング、エングレーヴィング、リフトグラウンド・エッチング(?) | 2/30 | Etching, engraving, and lift-ground etching(?) | 52.0×37.1; 36.3×24.1

19 | 象の風景―S 町 | Elephant-S Town | 1988 | エングレーヴィング | 4/60 | Engraving | 36.0×24.3; 18.5×12.4

20 | 象の風景―境界 | Elephant-Border | 1988 | エングレーヴィング、空押し | AP | Engraving and embossing | 29.2×21.8; 14.8×11.3

21 | 空の森 | The Forest in the

Sky | 1987 | エングレーヴィング | 16/60 | Engraving | 36.0×52.7; 24.2×36.6

22 | 一枚の森 | A Sheet of Forest | 1988 | エングレーヴィング、空押し | 15/60 | Engraving and embossing | 42.6×32.2; 29.9×22.8

23 | そら豆 | Fava Beans | 2001 | メゾチント (2版2色刷り) | 1/30 | Color mezzotint | 18.0×25.0; 11.0×15.0

24 | そら豆 | Fava Beans | 2001 | メゾチント | 1/30 | Mezzotint | 19.8×26.4; 11.0×14.9

25 | 幻花 I | Flower of Dreams I | 2001 | メゾチント (2版2色刷り) | 20/30 | Color mezzotint | 47.0×34.7; 31.9×22.7

26 | 幻花 II | Flower of Dreams II | 2001 | メゾチント (2版2色刷り) | 2/30 | Color mezzotint | 34.0×25.7; 22.6×15.6

27 | 幻花 III | Flower of Dreams III | 2001 | メゾチント | 1/30 | Color mezzotint | 34.3×25.5; 22.7×16.0

28 | おぼろ | Hazy | 2001 | メゾチント (2版2色刷り) | 6/30 | Color mezzotint | 25.6×18.1; 18.1×12.0

29 | 浦上のマリア | Virgin of Urakami Cathedral | 2001 | メゾチント (2版3色刷り) | 7/30 | Color mezzotint | 46.6×37.6; 29.9×22.0

30 | 長崎の基督 | Jesus of Nagasaki | 2001 | メゾチント | 8/20 | Mezzotint | 37.9×30.0; 24.7×17.7

31 | 大地の祈り | Prayer of the Earth | 2001 | メゾチント (2版2色刷り) | 6/30 | Color mezzotint | 48.5×36.4; 32.0×22.9

32 | 柘榴 I (開く) | Pomegranate I (To Open) | 2002 | メゾチント (2版2色刷り) | 3/20 | Color mezzotint | 28.0×25.6; 19.9×18.1

33 | 柘榴 II (黒) | Pomegranate II (Black) | 2002 | メゾチント (3版3色刷り) | 8/30 | Color mezzotint | 24.5×34.0; 15.0×22.0

34 | 柘榴 IV (空) | Pomegranate I (Sky) | 2002 | メゾチント (2版3色刷り) | 1/30 | Color mezzotint | 25.5×18.3; 18.2×12.0

35 | 記憶の風景・遠雷 | Landscape of Memory: Distant Thunder | 2003 | エングレーヴィ

ング、メゾチント | AP | Engraving and mezzotint | 37.8×52.3; 29.8×45.3

36 | 記憶の風景・宿り | Landscape of Memory: Lurking | 2003 | エングレーヴィング、メゾチント | AP | Engraving and mezzotint | 38.3×51.8; 29.8×45.2

37 | 胎界 | Embryonic World | 2004 | メゾチント | 1/30 | Mezzotint | 55.7×38.2; 45.4×30.0

38 | 萌界 | Germinative World | 2004 | メゾチント | 3/30 | Mezzotint | 54.9×37.5; 45.5×30.1

39 | 象へ | To Elephant | 2004 | メゾチント | 1/20 | Mezzotint | 40.1×31.0; 30.0×22.0

40 | 長崎情景 (殉教の丘から) | Nagasaki Landscape: from the Hill of Martyrs | 2005 | メゾチント (2版2色刷り)、手彩色 | 14/20 | Color mezzotint with hand coloring | 28.8×55.5; 18.0×45.4

41 | 無辺 | Infinity | 2007 | エングレーヴィング | 1/50 | Engraving | 30.0×39.5; 20.8×29.8

生誕 80 年

渡辺千尋の銅版画

2024年7月24日(水)－11月10日(日)

長崎県美術館 常設展示室第1室

渡辺千尋の銅版画『象の風景―無風地帯』

渡辺千尋の銅版画『象の風景―虚無への設計』

渡辺千尋の銅版画『象の風景―境界』

渡辺千尋の銅版画『象の風景―零地帯』

渡辺千尋の銅版画『象の風景―S町』

渡辺千尋の銅版画『象の風景―浦上のマリア』

渡辺千尋の銅版画『長崎の基督』

渡辺千尋の銅版画『大地の祈り』

渡辺千尋の銅版画『一枚の森』

渡辺千尋の銅版画『そら豆』

渡辺千尋の銅版画『そら豆』

渡辺千尋の銅版画『柘榴 I (開く)』

渡辺千尋の銅版画『柘榴 II (黒)』

渡辺千尋の銅版画『柘榴 IV (空)』

渡辺千尋の銅版画『おぼろ』

渡辺千尋の銅版画『おぼろ』

渡辺千尋の銅版画『おぼろ』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』

渡辺千尋の銅版画『無辺』



長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

長崎県美術館 常設展示室第1室

参考文献

・渡辺千尋『渡辺千尋銅版画集 象の風景』用美社、1988年

・渡辺千尋『ざくろの空 頓珍漢人形伝』河出書房新社、1995年

・渡辺千尋『殉教の刻印』小学館、2001年／増補改訂版：長崎文獻社、2013年

・『渡辺千尋 銅版画 カタログ・レゾネ』渡辺千尋遺作管理会、2010年

・『渡辺千尋 復刻の聖母』(展覧会図録)、

練馬区立美術館、2013年

・福満葉子編・著『渡辺千尋の仕事』(展覧会図録) 長崎県美術館、2014

・忠あゆみ『渡辺千尋』(リーフレット) 福岡市美術館 近現代美術 解説 第300号、2020年

り（創作的な銅版画としてはエッチングが主流になります）、19世紀後半における写真製版技術の完成によって複製版画としての需要も失います。今日、この技法は、描線の驚異的な細かさゆえに紙幣の原版などに使われてはいるものの、熟練を要し制作時間もかかり過ぎることから、これを全面的に創作に用いている作家は、ごくわずかです。渡辺千尋が2009年に他界した後、木原康行（2011年歿）、門坂流（2014年歿）、久保卓治（2021年歿）らも相次いで鬼籍に入り、尾崎ユタカなどが数少ない現役のエングレーヴィング作家として活動しています。

1978年にエングレーヴィングに出会った渡辺は、おそらく途方もない忍耐と集中力によって独学で短期間のうちにこの技法をマスターし、翌1979年には日本版画協会展に《奇妙な来客》と《懺悔の夢景》を出品、奨励賞を受賞します。いずれも、図像的には渡辺がそれまでペンや面相筆で描いてきた緻密なドローイングの延長線上にありますが、ビュランが彼のヴィジョンに驚くべき明澄さを与えていることは一目瞭然です。以後、1988年頃までが、渡辺のエングレーヴィング作家としての最も傑出した時期となりました。

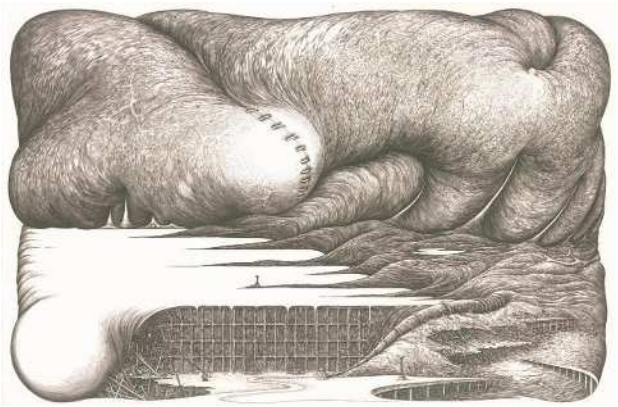
1mmの中に刻まれる線は10本以上ともいわれるほど細かく、その金属質の冷たく清潔な線が、無限に増殖を繰り返しながら画面全体を覆い尽くします。身体や風景、構造物をモチーフとしたイメージは、奇怪でグロテスクでエロティック、時にサディスティックでありユーモラスでもあります。シュルレアリスムや、同時代の画家・漫画家といった、多様な影響源の存在を感じさせますが、渡辺はそれらを咀嚼し血肉化した上で、自らの奔放な想像力と冴え冴えとした明晰なビュランの線によって、小さな紙の上に異形の風景を築き上げています。

技法の特性上、彼が残した作品の数は決して多くはありませんが（エングレーヴィング69点、メゾチント48点、エッチング4点が制作されています）、それらは、ビュランの伶俐な線そのものの美しさと奔放で過剰なイマジネーションによって見る者を圧倒し、白日夢の世界に連れ去ってしまう、そんな力を秘めています。

象の風景

「象の風景」は、1979年から1988年までの10年間に散発的に制作された、9点のエングレーヴィングによる風景画の連作です。9点のサイズはバラバラで、様式的にも異なるタイプの作品が混在しています。渡辺は1988年に、これら9点のうち7点を他のエングレーヴィング作品とともに収録した画集『象の風景 渡辺千尋銅版画集』（用美社）を出版しました。渡辺によれば、この画集は「10年のまとめ、という意味と、次へのステップのための区切りをしなければ先へは進めない、という覚悟」で出版されたものでした。

「象の風景」シリーズにおける、伶俐なビュランの線によって形づくられた異形の風景の数々は、渡辺の充実したエングレーヴィング作品の中でもとりわけそのヴィジョンの異様さによって傑出しています。描かれているのは、我々の世界とは少し異なる（他の惑星上のような）奇景、あるいは高架や標識、電柱のあるどこか懐かしい日常世界です。そこに巨大な雲のようなモノ



象の風景—K ダム | 1981 | エングレーヴィング、空押し

が出現し、こちらに向って押し寄せてきて、やがては全てを呑みこんでゆく。人の営みの痕跡はありますが、どこにも人間の姿はなく、ただその営みだけがひたすら消滅させられようとしている——。この悪夢としか形容しようのない終末的光景は、見る者を深く戦慄せしめずにはおきません。「象の風景」は、不可思議な世界を描いた渡辺の作品の中でも、最も謎めいた作品群であるといえます。

超絶技巧によるビュランの描線はそれ自体が美しく、その上、いくら見ても未知のディテールが立ち現れてくるので、永久に見続けていたいという欲望に取り憑かれるほどです。この緻密な線が描き出す風景画の多くに共通するのは、画面の奥から手前に向ってせり出してくる巨大な雲とも膨れ上がったバルーンともつかないモノです。しかもその膨張した表面に、静脈らしきものが浮かんでいる作品が複数あり、男性器のようでもあります。この巨大なモノを、男性性と結びついた暴力の表象と見なすこともできるでしょう。それが我々の世界に侵入してきて全てを蹂躪し破壊し尽くしてゆく光景、それが「象の風景」に描かれているものといえます。このシリーズが、何らかの「災厄」の表象であるのは明らかです。渡辺自身は何も語っていませんが、この災厄イメージの根源にあるものが原爆である可能性は高いでしょう。画集『象の風景 渡辺千尋銅版画集』に、渡辺のたつての希望でテキスト「象のメッセージ」を寄せたのは、原爆をテーマとする戯曲『象』（1962年初演）の作者である別役実なのです。同時に、「象の風景」シリーズが見る者の心に根源的な不安を喚起する、隠喩に満ちた終末的ヴィジョンとしての普遍性を持つ作品群であることも、また確かなことと思われます。

2. メゾチント 2001–2005

「銅版画を始めてはや30年。エングレーヴィング技法からの出発でしたが、今ではメゾチント技法にのめりこんでいます。前者の技法はビュランという刃物で直接銅板に彫るのですが、後者は先ず版を隈なく傷付け、真っ黒な画面にした後、図柄になる白い部分を刃物で削り出していきます。前者が白昼に闇を刻印する表現とするならば、後者は闇の中から光を抉り出す表現といえます。まるで正反対の表現法ですが、私の中の必然的欲求による移行でした。どちらも現代に逆行するような古めかしい職人芸に似た技法ですが、その手仕事でしか語れないものがあるのだと頑なに信じているのです。エングレーヴィングでは『象の風

景』シリーズのように反自然的な観念世界を探ってきましたが、メゾチントになってからは『ピロードの黒』と呼ばれている情趣あふれる黒闇のせいもあって、自ずと表現するテーマも変わってきました」（渡辺千尋「作者のこぼれ」より抜粋、『渡辺千尋 新作銅版画展』リーフレット、タイプント画廊、2005年）。

1998年以降エングレーヴィングを制作していなかった渡辺は、2001年に突如メゾチント作品を発表し始めます。メゾチントはロッカーと呼ばれるヘラ状の刃物で版全体を傷つけてまくれて覆い、それを部分的にスクレイパーで取り除き、バーニッシャーで磨くことで様々な明暗の調子を作り出す技法です。17世紀にドイツ人が開発し、英仏両国で発展したもので、柔らかい諧調が表現できることから主に絵画の複製に用いられていました。しかし20世紀に入って日本の長谷川潔や浜口陽三らにより独自の作品が生まれ出し、創作技法として新たな生命を吹き込まれたといえます。

エングレーヴィングが「線の技法」とすれば、メゾチントは「面の技法」です。渡辺はこの時、前者の明晰な白日夢のような世界からいったん撤退し、暗闇から光が滲み出るような暗示的空間を作ることに専心することにしたようです。一方、フランス語で「マニエール・ノワール（黒の技法）」と呼ばれるメゾチントですが、渡辺の作品は黒一色ではなく、多色刷り、もしくはカラーの単色刷りであることが多いのが特徴です。

技法を変えたことで表現内容にも変化が生じます。キリスト教主題・モチーフ（聖母マリア、磔刑、聖母の純潔を象徴する百合、キリストの復活を象徴する柘榴）と長崎的モチーフ（浦

出品リスト

・作品は全て長崎県美術館所蔵（渡辺紀子氏寄贈）。

・データの配列は次の通り。 NO./題名/題名(英)/制作年/技法/エディション番号/技法(英)/サイズ(紙;プレート)(cm)

1 奇妙な来客 A Bizarre Visitor 1978 エングレーヴィング、雁皮刷り 23/60 Engraving and chine collé 39.7×29.2; 28.4×18.4	9/60 Engraving 26.6×19.8; 15.6×12.0	
2 懺悔の夢景 The Dream of Repentance 1978 エングレーヴィング、雁皮刷り 1/60 Engraving and chine collé 36.8×45.9; 23.9×33.6	5 かくれんぼ Hide-and-seek 1978 エングレーヴィング 1/50 Engraving 19.5×14.0; 13.4×8.0	
3 卵夢 Egg Dream 1978 エングレーヴィング、雁皮刷り 14/60 Engraving and chine collé 39.8×31.2; 28.0×20.8	6 机上の惨事 Calamity on the Table 1978 エングレーヴィング 1/60 Engraving 38.4×30.4; 31.0×21.9	
4 笑う男 The Man Who Laughs 1978 エングレーヴィング	7 午後光景 An Afternoon 1979 エングレーヴィング 10/50 Engraving 36.7×49.7; 24.7×29.6	
	8 夢底器 The Dream	



幻花 II | 2001 | メゾチント (2版2色刷り)

上天天堂など) が登場するのです。これには、メゾチントの光の表現が、渡辺に聖性や神秘性を喚起した可能性が考えられますが、より直接的には、1996年に島原半島の有家町（現・南島原市）からの依頼で行った16世紀末のキリシタン版画《セビリアの聖母》の復刻の仕事の影響と思われる（この仕事については渡辺の著書『殉教の刻印』小学館、2001年/長崎文献社、2013年）。その他、月下美人をはじめ様々な植物が取り上げられていますが、暗闇の中にただ存在する、といった風情の植物たちは、普遍的な、生と死、あるいは宇宙の観念のようなものを反映しているようでもあります。こうした境地に達したのは、やはり聖母復刻の作業を体験したためかもしれません。渡辺の最後のメゾチント作品の一つ、《長崎情景(殉教の丘から)》は、繊細な青のモノクロームの中、長崎・西坂からの眺望に椿が象徴する26聖人殉教のイメージを重ねたものです。

仕事については渡辺の著書を参照。渡辺千尋『殉教の刻

を参照。渡辺千尋『殉教の刻